

1.6 調査結果に対する外部評価

当所の調査研究について、外部の意見を聞くことにより県民ニーズに合致した効率的・効果的な業務の遂行とその透明性の確保を図るため、外部評価委員会による評価を行った。

- 1 開催日
平成28年11月16日（水）
- 2 委員
学識経験者等5名
- 3 評価対象
成果評価（調査研究の目的の達成度、行政施策への寄与度等）を評価）・・・なし
中間評価（調査研究の進捗状況、継続の妥当性等）を評価）・・・1件
計画評価（計画段階で調査研究の目的、内容の妥当性等）を評価）・・・1件
- 4 評価方法
項目別評価、総合評価とも次の5段階で評価する。
5：非常に高く評価できる。
4：高く評価できる。
3：評価できる。
2：あまり評価できない。
1：評価できない。
- 5 評価結果

【1】中間評価

(1) 調査研究課題	
有毒キノコに由来する毒成分の一斉分析法の開発（研究期間：平成26年度～平成27年度を平成26年度～平成29年度に変更）	
(2) 項目別評価	
①研究目的の進捗状況	4
②研究体制及び研究内容変更の必要性	5
③研究継続の妥当性	4
(3) 総合評価	4
(4) 委員のコメント	
○化学分析の基礎的な部分が大事であり、共同研究も視野に入れたほうが良い。	
○全国的にも研究例が少ないテーマであり、継続する必要性はある。	
○検査法が確立してデータが蓄積すれば、治療法にも結び付く可能性がある。	
○この研究により、毒キノコに対する予防、情報の提供など、県民ニーズへの波及効果へ繋げて欲しい。	
○全国的に役立つ情報を、熊本県から発進するよう努めて欲しい。	
○実験の精度を上げて、研究成果を出すことを期待する。	

【2】計画評価

(1) 調査研究課題	
植物性自然毒の一斉分析法の開発（研究期間：平成28年度～平成29年度）	
(2) 項目別評価	
①研究目的の適切性・妥当性	4
②研究体制、研究内容の適切性・妥当性	4
③衛生行政・環境行政施策への寄与度	4
④学術的意義又は技術開発への寄与度	4
⑤県民ニーズへの対応状況	3
(3) 総合評価	4
(4) 委員のコメント	
<p>○この分析法が、自然毒への啓発にどの様に寄与するかを明示することが大事である。県民の健康まで意識が広がれば、次の研究に繋がっていく。</p> <p>○県民への啓発について、研究の成果を既存のものに加えて新たな手法に活かせるような検討が必要である。</p> <p>○医療機関等の臨床の場で活用できることを、研究の成果として行政の側からアピールして欲しい。</p> <p>○原因食物が特定できる場合まで一斉分析法を用いる必要性があるのかという印象を受ける。</p> <p>○検査における回収率や検出下限値の向上等により、患者の血清や尿からの中毒成分同定の精度を上げるための改善に、更に努めてもらいたい。</p>	